

各地で盛り上がりを見せる夏まつり

三新田まつり

7/22・23
有楽町・千代町
商店街ほか

歩行者天国として開放された路上では、至る所でダンスやプロレス、大道芸などのパフォーマンスが披露され、観衆を盛り上げました。

また、グルメキッチンカーや射的などの出店が軒を連ねたほか、バスケットボールのフリースローチャレンジも行われ、多くの家族連れや若者でにぎわいました。



子どもたちの熱い視線を集めるマジックショー



観客から大きな声援がおくられた綱引き大会

7/30
稲垣体育館前

稲垣まつり

まつりを通じて人々をつなげるをテーマに、熱い思いを抱いた有志たちが「稲垣コネクトプロジェクト」(黒滝一雄会長)を立ち上げ、稲垣まつりを初めて開催しました。

メインイベントは、俵が付いた綱で行われた綱引き大会。トーナメント方式で8チームが参加。観客から大きな声援が送られる中、熱戦を繰り広げ「つがるにしきた青年部」チームが初代王者に輝きました。

会場には、キッチンカーや出店も並び、多くの買い物客でにぎわいました。

フラットまつり

7/30
むらおこし拠点館
フラット

つがるちゃんとしゃんけん大会やビンゴゲーム、歌謡ショーなどの多彩な催しが行われたほか、「AOMORI花嵐桜組」が登場し、よさこいソーランなど、圧巻の演舞を披露しました。

会場では、訪れた人たちがテーブルを囲み、ビールやジュース片手に話に花を咲かせ、まつりの最後には、夏の夜空に花火が打ち上り、訪れた人々を楽しませていました。



来場者も花嵐桜組のメンバーと一緒によさこいソーランを演舞



やぐらを囲んで輪になって踊りを楽しむ参加者

8/19
イオンモール
つがる柏

盆踊り大会

4年ぶりの開催に沸いた会場では、市内外から揃いの衣装や仮装をした団体、家族連れなど、約1,600人が盆踊りに参加。特設のやぐらを囲み輪になって、「かしわ音頭」や「つがる市民音頭」に合わせて踊り、夏の風物詩を楽しんでいました。

五所川原市金木地区から参加した女性たちは「盆踊り最高!来年も絶対来ます」と笑顔で話しました。



白菊を献花する参列者

7/21 松の館

先の大戦から78年目の夏

戦没者追悼・平和祈念式が執り行われ、遺族や関係者約35人が市の戦没者1,325柱の御霊を悼み、不戦の誓いを新たにしました。

式典では、倉光市長が「過去の歴史に向き合い、戦争の悲惨さと、平和の尊さ、平和を堅持する知恵を次の世代に継承することが、私たちの責務です」と述べました。

遺族を代表して市遺族会の高橋滋会長は「戦争を知らない人たちの方が多くなったが、先人たちがつらい思いをして生きてきたことを伝えていくのが私たち遺族の務め」と追悼の言葉を述べました。

その後、参列者一人一人が祭壇に白菊を献花し、戦禍で尊い命を落とした戦没者に思いを馳せました。

学校給食にジェラート登場!

7/21
木造中学校

この日、市内の全小中学校で、学校給食のデザートに、「農家の刺客」で販売しているジェラートが登場しました。市では、食育とともに6次産業化の取り組みを知ってもらおうと学校給食での提供をスタート。月に1度、毎回種類を変えて全6回の提供を予定しています。

木造中学校の教室では、つがるブランド農産物を原料にした新感覚ジェラートを味わう生徒たちから笑みがこぼれていました。

木造中3年の渋谷歩夢さんは「メロンとレモンの組み合わせは夏にピッタリ。月に1回給食に出るので幸せです」と話しました。



ジェラートを食べ思わず笑みがこぼれる生徒

7/24
松の館

盛貢氏がピアノを市に寄贈

元木造町長盛貢氏が、市にアップライトピアノ1台を寄贈しました。

この日、松の館の創作コーナーの一角にピアノが設置されると、試奏に合わせて盛氏が歌声を披露し、集まった関係者たちから拍手が沸きました。

盛氏は「このピアノを寄贈したことは最大の誇りであり、思い出です。どうぞ皆さん、世界平和のために、地域の発展のために、ピアノに合わせて歌ってください」と思いを語りました。

設置されたピアノは、誰でも自由に弾くことができますので、気軽に立ち寄り、演奏や歌唱をお楽しみください。



ピアノを寄贈した盛氏

土器づくりに挑戦!

8/5
松の館

縄文文化や遺跡について理解を深めてもらいたいと、市内の小中学生を対象に縄文土器づくり体験が開かれました。

参加した小中学生23人は、講師の津軽亀ヶ岡焼の陶芸家一戸広臣さんに教わりながら、縄文土器を制作。粘土を平たく円形状に伸ばして土器の底になる部分を作ってから、ひも状に伸ばした粘土を底部分の縁に沿って積み重ねて側面を作り、最後に縄の文様をつけるなど、思い思いに作品を仕上げました。

制作した土器は、一戸さんが乾燥させ、窯で焼いて完成します。



熱心に土器の側面を成形する参加者

育児中の父母たち 災害に備えて

7/20
ひなた児童会館

市・子育て支援センター共催の「子育て家庭の防災力アップセミナー」が開催され、乳幼児を育児中の父母たち13組が参加し、子どもを守る避難行動について理解を深めました。セミナーでは、講師のNPO法人青森県防災士会の工藤眞己副代表理事が、普段から防災マップで避難所や自分が住んでいる場所にどんな災害リスクがあるかを把握しておくようアドバイスしました。

稲垣地区から参加した夫婦は「避難所には幼児食が少ないことを初めて知り、準備の必要性に気付いた。今後は防災マップを参考にしながら災害に備えていきたい」と話しました。

セミナー後には、備蓄食材を使用した幼児食と液体ミルクの試食会も行われ、普段の食事との味の違いを確認していました。



備蓄食材を使用した幼児食を試食する親子

小中学生 実践的な英語を習得する

7/28
つがる地球村



市内のおすすめの食堂を英語で紹介する生徒

英語によるコミュニケーションへのモチベーションを高めるため、「Enjoy! English Day at つがる地球村2023」が行われました。

8人のALTと22人の児童生徒たちは、全て英語でコミュニケーションをとって活動。班分けをして、小学生はつがる市をイメージしたイラストを描いたTシャツを作ったり、中学生は市の観光スポットのPRを発表したりして、英語を習得していました。

柏小6年生の野澤陽さんは「初めての参加で緊張したけど、違う学校の人も協力して活動することができた」と話し、車力中2年生の永井悠河君は「ALTの先生方が優しく教えてくださり、英語のコミュニケーションスキルを高めることができた」と話しました。

活動を終えた児童生徒の輝く笑顔からは、英語に自信がいた様子が伺えました。

子ども食堂開催 世代を超えて交流を図る

ひなた児童会館とつがる市社会福祉法人等連絡協議会が連携し、木造高校の生徒もボランティアで協力して、子ども食堂を開きました。

子どもたちをはじめ、高齢者も参加し、けん玉やメンコ、ポッチャなどを一緒に楽しんで交流したほか、つがる市産の食材を使った昼食に舌鼓を打ちました。しみラーメンや豚肉巻きおにぎり、ナスの揚げたしなど、ご厚意で提供してもらった地元食材を使ったメニューは、子どもたちがおかわりするほど好評でした。

親子で参加したお母さんは「昼食を提供してもらって助かります。子どもが楽しそうで参加してよかった」と話しました。

この子ども食堂を企画した、ひなた児童会館稲葉綾子館長は「つがるの食材や味付けを、子どもたちも高齢者も一様においしいね!とってくれて、食を通してつながれたことがうれしかったです」と笑顔で話しました。

7/30
ひなた児童会館



スタッフが試作を重ねて考案した昼食を味わう参加者

8/7
松の館

メロンを通じて食育



完成したフルーツポンチを取り分ける子どもたち

市では、食育の一環として「親子収穫体験&料理教室」を開きました。参加した11組は、木造館岡地区の三浦誠さんの畑で、大きく育ったレノメロンを収穫。子どもたちはハサミでつるを切ると、ずしりと重いメロンをうれしそうに抱えていました。

収穫を終えた参加者たちは、松の館に移動し、市食生活改善推進員に教わりながら、白玉粉をこねて丸めたり、用意されたタカミメロンとユウカメロンを四つ葉の形にくり抜いたりして、フルーツポンチづくり挑戦。全ての具材をボールに入れ、混ぜて完成させると、一人一人持ち帰り用のカップに取り分けました。

森田小5年の杉野森咲恵さんは「メロンを収穫して楽しかった。フルーツポンチを家に帰って食べるのが楽しみ」と笑顔で話しました。

今年も盛況 メロン・スイカフェスティバル

8/11
つがる地球村

つがるブランド推進会議主催のメロン・スイカフェスティバルが開催されました。

5・6玉入りのタカミメロン1箱が4千円、スイカ「羅皇(らおう)」も1玉、3Lサイズ2,500円、Lサイズ1,500円とお得な価格で購入できるとあって販売ブースには、早朝から長蛇の列ができました。

出店では、鉄板で焼いた姉妹都市白老町特産の白老牛をはじめ、「農家の刺客」のジェラートなどを販売したほか、キッチンカーも集合し、たこ焼きやスムージーを買い求める人たちにぎわっていました。

ステージでは、スイカ早食い競争が行われ、参加した子どもたちは、我先にと1位目指してスイカにかぶりついていました。



がむしゃらにスイカにかぶりつく早食い競争参加者

プランターメロン収穫祭開催

8/16
イオンモール
つがる柏



プランターメロンを収穫した園児と4Hクラブのメンバー

7月10日からダイソーイオンモールつがる柏店の入口に展示しているプランター栽培のメロンが収穫時期を迎え、銀杏ヶ丘こども園の園児が、市農村青少年クラブ連絡協議会(4Hクラブ)のメンバーと一緒にメロンを収穫しました。

この日、イオンモールつがる柏のシャコちゃんコートには、4Hクラブのメンバーが手間暇かけて栽培・管理してきたメロンの鉢がずらりと並べられ、どの鉢にも網目がはっきり入った大きなメロンが育っていました。

園児たちは、4Hクラブのメンバーに教わりながら、はさみでつるを切って収穫。メロンは、1人に2玉ずつプレゼントされました。

収穫を終えた園児たちは「メロン重い!」「おうちに帰ったらお母さんに切ってもらって食べる!」と話し、笑顔いっぱいであっという間に食べてしまいました。